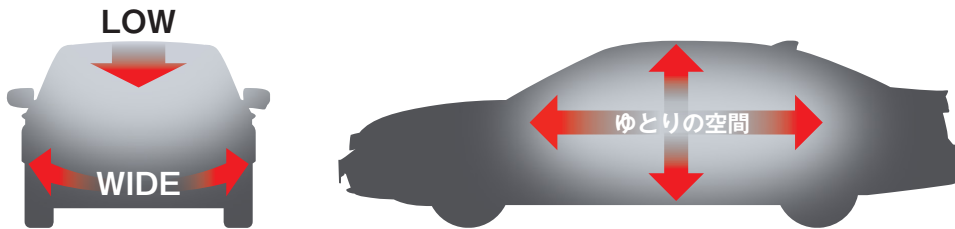


## プレミアムセダンのプロポーションと広さを両立したパッケージング

### ロー＆ワイドの走りの骨格にCセグメントを超えるゆとりの空間を実現

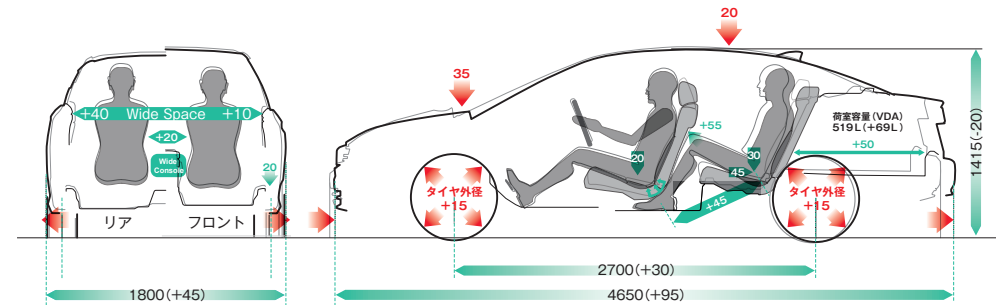
Newシビックの開発で特に重視したのがパッケージングでした。まずはクルマの基礎となるプラットフォームを新規に開発。そのうえで、スポーティーな走りに貢献し美しいフォルムを生み出すロー＆ワイドの基本骨格を構築しながら、初代シビックから綿々と受け継がれてきたM/M(マン・マキシマム/メカ・ミニマム)思想を踏襲。プレミアムセダンのプロポーションと室内の広さを実現しています。



### Cセグメントトップレベルの広さを実現

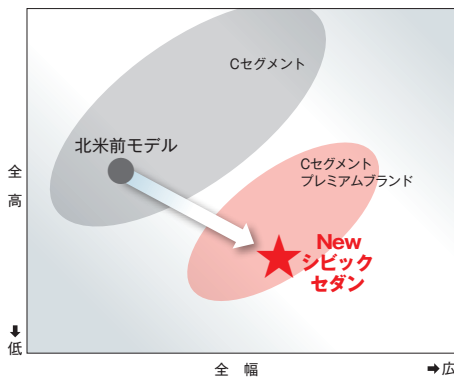
SEDAN

ロー＆ワイドの基本骨格に加えホイールベースをしっかりと確保したことで、室内幅・室内長ともに大きなゆとりのある空間を実現。さらに、前席ではインストルメントパネルの設計の工夫により膝まわりのゆとりを確保し、後席ではフロントシートバックの形状の工夫などにより膝まわりの余裕や良好な足入れ性を実現しています。また、全高を20mm下げながらもシートのヒップポイントを同じく20mm低くしたことでヘッドクリアランスも十分に確保しています。数値は北米前モデル比

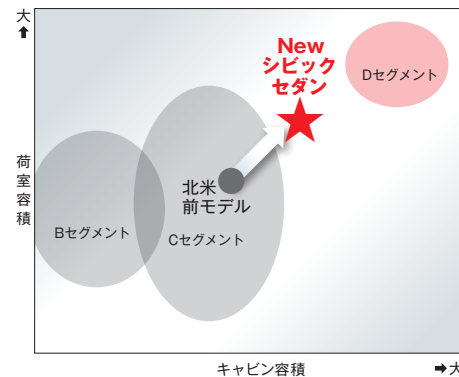


比較数値は北米前モデル比 Honda測定値 単位: mm

### ロー＆ワイド スタンス比較イメージ



### 空間容積比較イメージ

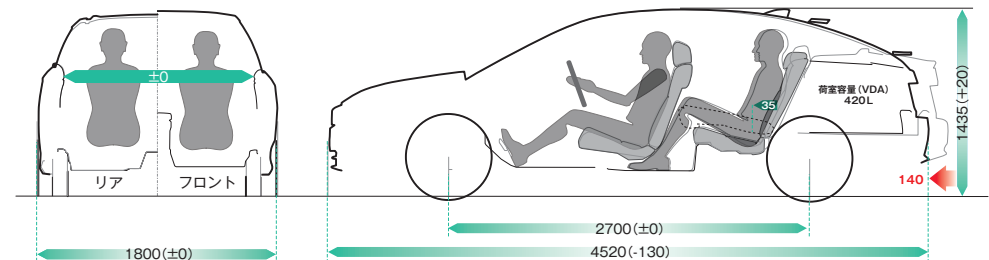


### よりダイナミックなプロポーションに広さと使い勝手を確保

HATCHBACK

セダンとプラットフォームを共有したロー＆ワイドの骨格や同じホイールベースにより、セダンと同等の室内幅を確保しながら、リアのオーバーハングをセダンに対して140mm短縮することでよりダイナミックで軽快なハッチバック・プロポーションを実現。リアシートをセダンよりも35mm前に設置することで、ハッチバックの使い勝手の良さである荷室の容量を大きく確保。Cセグメントハッチバックでトップ\*の容量を実現しています。

\*2017年7月現在 Honda調べ



比較数値はNewシビック セダン比 Honda測定値 単位: mm